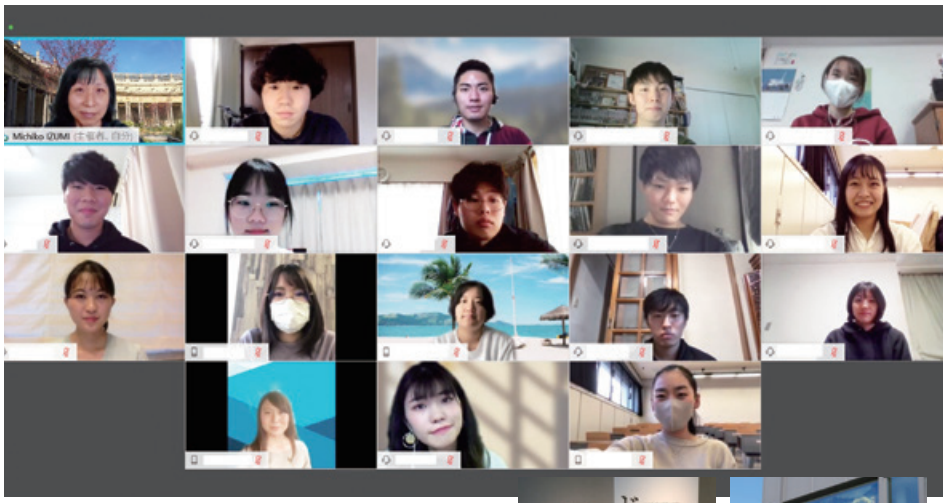
文学部

泉美知子ゼミ

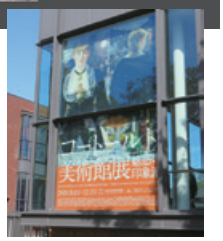
MICHIKO IZUMI SEMINAR

「刺激し合い高め合い、フランス美術への理解を深める」

私たち泉ゼミでは、主に19世紀フランスの美術を中心に研究しています。ゼミ生それぞれが興味のある画家や芸術運動を主題に選んで研究しており、その主題は多岐にわたっています。3年次で美術に関する見識を深めつつ卒論を書く準備を進め、4年次ではそれまでの研究を発展させて卒論を執筆しています。また、研究を発表し合うことで、泉ゼミ全体で19世紀フランス美術への理解を深めています。



オンラインでも活発な意見交換が行われています（2020年度）



学内に留まらず本物を鑑賞して感性を磨きます。2019年度は「ドービニー展」（左）、「コートールド美術館展」（右）を見学

泉ゼミについて

泉ゼミは、フランス語文学文化専攻内に一昨年新設されたばかりの美術史美術館コースの学生が集まっているゼミです。このゼミの特徴は、学生が研究や意見を発表したあとの質疑応答に重点を置いていることです。この質疑応答では、時間を十分にとったうえで、素朴な疑問から自身の研究に絡めた質問、発表内容からさらに一歩踏み込んだ質問など、学年の枠を越えてさまざまな質問がなされています。これにより質問者の発表に対する理解が深まるとともに、発表者も新たな気づきや自分のなかで抜けている知識や情報に気づくことができ、自身の研究をより深めることができています。

ゼミの活動

ゼミの活動は3年生を中心に行います。前期はゼミ全体のテーマが設定され、それに関連する画家や作品について分担し、発表を行います。この発表を通じて、自身が興味のあるテーマや主題を探し、また発表の準備を通じて資料の探し方も学んでいきます。2019年度は、ゼミ全体のテーマを「十九世紀のサロン」として、ルーヴル美術館の主要な作品について各自発表を行いました。2020年度は、コロナ禍によって図書館や研究室に行けない状況だったこともあり、インターネットを活用しました。国立西洋美術館の所蔵作品を取り上げ、「人物の表現」と「風景画」をテーマに、オンライン会議ツールでパワーポイントのファイルを共有した発表となり、最初はこの慣れない形式に苦戦しました。

後期は、卒論のテーマを具体的に決めていきます。泉先生と面談しながらそれまでの研究を通じて自分が何に興味があるのかを分析し、そこから卒論のテーマを決定していきます。学年末

日下（くさか） 聖宝（きよはる）
文学部人文社会学科
フランス語文学文化専攻4年
神奈川県立光陵高校出身

にはここで決めたテーマについてのレポートを提出し、4年次から始まる卒論の執筆の準備をスタートさせます。卒論発表では、ゼミ生全員からのコメントカードで、感想やアドバイス、励ましの言葉をもらいます。

学びは教室の外へ

ゼミの重要な課外授業として、美術館見学があります。希望をとって見学先が決まると、事前学習として展覧会に関わる美術館、画家、コレクターについて3年生が発表します。さらに見学後、各自が書いたレポートをゼミ全体で共有することで、自分にはない着眼点や表現を学びます。2019年度は「ドービニー展」や「コートールド美術館展」を見学しました。また、夏には2泊3日の合宿を行い、19名の発表と質疑応答が午前から夜まで続きました。2日目の夜には打ち上げを行い、先生を含むゼミ全体の仲がとても深まったと思います。

美術を学ぶこと

2020年度の4年生は、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ティツィアーノ、ルーベンス、フリードリヒ、ターナー、ルノワール、ドガ、スーラ、ゴッホ、廃墟趣味、廃校の美術館転用、コルセットとフェミニズムについてなど、多様なテーマで卒論を準備しています。

画家のなかには自身の考えを残していない者も少なくありません。その考え方を残された作品や当時の資料を通じて考察し研究していくのが、美術を学ぶおもしろさだと私は考えています。そして、この学問にはほかにはない「作品観察」があり、そこで感じたことを自分の言葉で表現し、人に伝える必要があります。そんな美術の学びは、観察力や表現力、多面的に見る力を養うことができ、社会に出て役立つ力を総合的に鍛えることができるのも美術の魅力の一つです。

温かみあふれる泉ゼミ

泉ゼミでは、みんなで楽しくメリハリをつけて研究しています。たとえば、発表中は集中して聞いていますが、その後の質疑応答はピリッとした空気は消え、和やかな雰囲気で行っています。そのため、学年問わず質問しやすい環境になっているのも泉ゼミの魅力の一つです。また、授業時間外にも各学生の関心がありそうな記事や展覧会があれば教えてくださったり、学生の私的な相談にも親身になってくださったりする泉先生の人柄に、学生一同とても助けられています。泉ゼミのブログもありますので、興味を持たれた方はぜひのぞいてみてください。

2020年度は、コロナ禍によって世の中が大きく変化し、大学生も多大な影響を受けた一年でした。そんな状況下でも卒論執筆の指導をしてくださった泉先生や、協力してくれたゼミの友人たちに感謝の念を抱くとともに、2021年度の4月には進級し、新たなメンバーとなった泉ゼミが教室に集まって行われていることを祈っています。

文学部准教授 泉（いずみ） 美知子（みちこ）

大学で美術を学ぶとは

フランス語文学文化専攻の「美術史美術館コース」は、美術の歴史をたどる「美術史」と、美術と社会の接点としての「美術館」を初歩から学ぶコースです。系統的なカリキュラムを通して、双方の専門知識を身につけ、その学びを活かして社会に出ることをめざします。

「美術を学ぶ」というと、日本では描き方を学ぶと捉えられがちですが、それは高校までの美術教科書が「作ること」に主眼を置いているからでしょう。このコースでは、作品を「見ること」を学びます。高校までこうした教育を受ける機会はおそらくなかったと思います。だからこそ、大学に入って初歩から学ぶのです。

泉ゼミでは、作品を「自由に鑑賞すること」ではなく、「見て考える」ことが求められています。学生は美術史の知識を学んだうえで、それに基づいて作品を理解・解釈・分析し、それを自分の言葉で表現するというリテラシーと思考能力を鍛えることになります。ゼミで発表するには、何が描かれているのか、どのように表現されているのか、どのような歴史的背景や芸術潮流の影響を受けたのか、作品の比較・分析を通して考察を深めることが求められているのです。

2020年度は、泉ゼミの第1期生が卒業します。美術史、美術館と向き合ったゼミでの楽しく知的な学びが、卒業生のその後の人生を豊かにしてくれることを願っています。